

## [課程-2]

### 審査の結果の要旨

氏名 新川 祐利

本研究は、高齢者の安全な薬物治療の観点から重要なテーマである多剤併用について、東京都近郊都市部の地域在住高齢者における多剤併用の出現頻度および多剤併用と認知機能障害の関連を明らかにすることを試みたものであり、下記の結果を得ている。

1. 東京都都市部地域在住高齢者における多剤併用（服薬数  $\geq 6$ ）の出現頻度は 28.0%であった。
2. 地域在住高齢者において多剤併用と認知機能障害との間に関連が認められた。
3. 向精神薬や抗コリン薬の服用など認知機能障害に関連しうる交絡因子で調整しても、多剤併用と認知機能障害との間に関連が認められた。

以上、本研究は、既存の単一の病院や施設における報告とは異なり、地域在住高齢者における訪問調査で、多剤併用の出現頻度を明らかにした。本邦ではこれまで報告のなされていない多剤併用と認知機能障害との関連について、潜在的交絡因子を調整し明らかにしたものであり、学位の授与に値するものと考えられる。